

令和8年度 都市経済常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 水本定弘 (副委員長) 花田 慎 (委員) 杉本啓子 (委員) 藤本恵祐
(委員) 菊池雅介 (委員) 加藤大嗣

2 視察日時

令和8年5月8日(金) 10時00分から12時00分まで

3 視察先

特定非営利活動法人里山コモンズ(茅ヶ崎市みずき3-5-13)

4 視察事項

特定非営利活動法人里山コモンズの取組について

5 視察概要

	(担当 藤本 恵祐)
視察先選定理由	耕作放棄地・放置林を再生・活用した市民農園、食育支援、体験農園等の取り組みについて調査研究し、当委員会の政策提言に生かすため。
内 容	<p>1 取組の概要</p> <p>地域内外の人々と協働して、郊外住宅地近隣の耕作放棄地・放置林を緑豊かで生物多様性に富んだ里山本来の姿に再生し、地域の共有財(コモンズ)へと育むことで、地域のコミュニティーを醸成し、豊かな里山を次世代に継承する。</p> <p>(1) 法人の定款記載活動分野</p> <ul style="list-style-type: none">ア 社会教育の推進を図る活動イ まちづくりの推進を図る活動ウ 環境の保全を図る活動エ 子どもの健全育成を図る活動オ 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動 <p>(2) 具体的な活動</p> <p>「agora ちがさき」(市民農園～下寺尾)の整備、運営</p> <p>(3) 現在までに実現した事業</p> <ul style="list-style-type: none">ア 市民農園事業(環境の保全を図る活動)イ 食育支援事業(子どもの健全育成を図る活動)ウ 体験農園事業(環境の保全を図る活動)

【agora ちがさき現地視察模様】



2 取組の経緯

耕作放棄地の資材置場化計画を抑止し市民農園等として再生することで、農地・景観・森の生態系の保全やコミュニティづくり、事業用車両通行の抑制等を図り、地域住民が誇れる場を創造することとした（近隣住民によるワークショップを通じてニーズを把握）。

3 取組に際しての課題

- (1) 耕作放棄地の地権者及び用地開発を行う不動産事業者との緻密な交渉
⇒行政を含む様々な関係者の助言・支援等を受けて実施
- (2) 農地転用手続き
⇒農業委員会における転用審査への対応
- (3) 有機農法への理解促進
⇒市内農地における慣行農法の普及がネック

4 「agora ちがさき」の利用状況

- (1) 市民農園（キジの庭＝15区画）の応募倍率＝1.33倍、区画利用率＝100%（全件有機栽培希望）
- (2) 利用者の年代は40代がメイン、全区画市内在住者だが、市外からの引き合いも多い
- (3) 今後の課題は駐車場、水道設備、農具置場、レンタル農具等

5 地域経済活性化に向けた今後の展開

- (1) 体験農園を活用した農福連携
⇒ワークショップ、マルシェ、収穫祭イベント開催等
- (2) 市民農園を活用した有機栽培農法
⇒関心のある市民の受け皿、運営ノウハウの蓄積と水平展開
- (3) 山林（無償借用地）を活用した野外活動ワークショップ
⇒ツリーハウスの設置等も検討中
- (4) オーガニック・カルチャー・ハブ
⇒学校での食育活動、コミュニティコンポスト等

【(参考) オーガニック・カルチャー・ハブのイメージ】



6 意見交換での主な意見・要望等

- (1) 資材置場新設や違法産廃処理の規制強化が必要
⇒埼玉県川口市の施行条例などが参考となる
- (2) 後継者が居ない一方で農地を手放したくない農家が多数存在
⇒農作業の委託化であれば農地法等に抵触せずに営農が可能
- (3) 農業委員会の委員構成見直しが必要
⇒慣行栽培農家以外に有機農法栽培農家も委員に加えるべき
- (4) 有機栽培農地の拡大が必要
⇒有機栽培農地と同時に販売先の拡大も必要
- (5) 現状では農園の経営は赤字状態
⇒収支改善策や行政の助成等も必要
- (6) 茅ヶ崎は海だけでなく里山もあるという訴求も必要

【意見交換模様】(みずきコミュニティハウス)



考

察

- 1 地域住民が主体となって運営する里山コモンズの取組は、豊かなみどりや地域環境保全だけでなく、農業を通じた地域コミュニティの活性化や食育等にも有意義。
- 2 耕作放棄地・山林を農地として維持するためには、資材置場等への転換を抑制し、里山コモンズのような取組を行政としても後押ししてゆくことが必要。
⇒農地所有者と耕作希望者のマッチング強化
⇒資材置場の設置・管理をより適正化するための仕組みづくり（条例等）
⇒森林環境譲与税の活用検討
⇒運営に関する資金的助成（コミュニティ形成、居場所づくりとしての評価）
- 3 有機栽培農法については、全市的な検討が必要。
⇒小田原市、相模原市の「オーガニックビレッジ宣言」等を参照
- 4 コンパクトシティながら「海」と「里山」という魅力的な地域資源を抱えておりそのトータル的な活用策が必要。
⇒里山コモンズのような取組みを通じ、豊かな自然環境を保全しつつ、新しいコミュニティの創造と交流人口を増やすことで、市内経済活性化の基盤づくりを目指す。

備

考

参考資料
「NPO 法人里山コモンズ History & Vision」